



エゾシカ駆除で農業被害の減少に取り組む鳥獣捕獲員

山本 勲さん (33歳・温5区)



「現実 実際の農業被害を減らすためにまずは畑に来るシカを駆除していきたい」
平成24年鳥獣捕獲員として、町の嘱託職員に雇用され、自ら捕獲する一方、農家にもわたの仕かけ方などを指導し、地元猟友会の皆さんと協力しながら、鳥獣被害の減少に力を発揮しています。

平成23年にシカの被害面積が約64㌔だったのが、同24年には約41㌔になり、被害金額も平成24年には、約556万円で、前年から126万円の減額となりました。
洞爺湖のウチダザリガニなど外来生物駆除の活動をする中で、酪農学園大学やUWクリーンレイクの人達と知り合い、「生まれ育った地元の役に立ち、やりがいのある仕事」として狩猟免許やわたの資格を所得し、パティシエから異色の転身を遂げました。

「洞爺湖町は、現在シカの生息密度が低密度ですが、高密度にならない今のうちに、対策をとっていきたい」と話し、「もつとかんたんにかけるわなの方法なども農家に伝えていきたい」と視線は、あくまで現実を見すえています。

こだわりの品販売ネット開設

特産品で町の魅力を発信

洞爺湖町の特産品販売を通じて洞爺湖町を広く知ってもらうとインターネットサイト「とうやこチャンネル」が、月に開設しました。運営は、月



特産品のネット販売を始めた高臣陽太社長

浦でマツサージサロンなどを営する「株月香」(高臣陽太社長)で、約140点の商品を紹介しています。

商品は、「ダイエットに最適」「スタッフのおすすめ」など11分類され、洞爺食品の「はるさめ」やピュアフーズとうやの「シソジュース」など、こだわりの一品を取りそろえています。サイト内には、ブログのほか町内の観光施設、食事処、お土産、ホテルなどの紹介も行い、商品の販売だけでなく町内の包括的なPRにもなっています。特にブログでは、商品が生ま

れる環境や生産過程を写真付きで紹介。高臣さんは「商品を買ってもらっただけでなく、写真などで現実には作られる過程を知ってもらふことで、洞爺湖町の魅力を伝えていくこともできる」とその狙いを話します。

このサイト開設は、高臣さんの以前からの構想に対し、同氏から相談を受けた町が、雇用創出事業の補助金約500万円を活用して同社に製作を委託。町内の失業者1人を正社員として雇用しています。

今後は、「野菜についても、春夏秋冬の旬に合わせて紹介し、種まきから実ができるまでをサイトに掲載したい」と話します。ホームページ <https://www.toyako-ch.com/>

電源立地地域対策交付金で特別保育事業を実施

町では、平成25年度北海道から電源立地地域対策交付金を受け、特別保育事業(乳児保育・障がい児保育)を行いました。

この交付金事業は、北海道が水力発電施設(虻田発電所)設置により生じた自然環境又は生活環境への影響を緩和するため、水力発電施設周辺市町村に対して交付されるものです。

交付金は、就労形態が多様化している昨今、保育所に対する様々な保育ニーズに応える一環として事業を実施しました。桜ヶ丘保育所で乳児保育事業、また本町保育所においては障がい児保育事業を実施しました。

このたびの事業運営により地域社会における児童福祉に寄与できたと考えています。

企画防災課企画防災グループ (☎74-3004)



桜ヶ丘保育所